



## 「天気の不思議が わかる本」

嶋村 克・山内豊太郎 著  
廣済堂出版、2002年3月、321頁、  
定価619円（本体価格）、文庫版、  
ISBN：4-331-65316-1

文庫版の気象の本である。電車の中でも、ちょっとした待ち時間の間にも読めるコンパクトな本である。「ある程度広く、ある程度深く」説明された話題が62項目あり、1項目について3頁から9頁で説明されている。項目のタイトルには、「雲を「室内」で作り出す方法とは?」、「なぜ似たような天気図でも実態は異なるのか」のような質問形式が多い。個々の項目の質問に対する回答がそれぞれの項目の内容となっている。

本書の著者は、専門分野が異なるが共に気象大学校で学生の教育と気象庁職員の研修に携わった経歴がある二人である。嶋村 克さんは、気象庁予報課や気象衛星センター、気象大学校、気象研究所予報研究部の予報分野で主に仕事をされ、もう一人の著者の山内豊太郎さんは、気象庁観測部の測候課、統計室、気象衛星室や気象大学校、気象研究所の主に観測分野を歴任された方である。それぞれの専門分野の興味深い話題が、よく準備された授業を聴いているかのように分かりやすい文章で説明されている。なお、この本は、同じ著者達による「雨のち曇り、ときどき晴れ」のサイエンス（PHP 研究所、1991年）という本を加筆・改筆のうえ、再構成・再編集したものだという。

全部で62項目の話題が、以下のように6章にまとめられている。

### 第1章 雲の驚きミステリー（山内）

“雲と霧とはどちらがうのか”、“雲はなぜ空に浮かぶのか”、“雲を「室内」で作り出す方法とは? ”、“「室内」でも霧は生まれる!?” など7項目

### 第2章 気象の主役は太陽（山内）

“大気はなぜ動くのか”、“地球の温度はどのように決まったのか”、“四季はなぜあるのか”、“夏至がいちば

ん暑くならない訳”など17項目

### 第3章 台風は自然界の腕白坊主（嶋村、山内）

“「締まった」台風と「締まらない」台風”、“なぜ台風は思わぬ所に豪雨をもたらすのか”、“寒波が台風を生み出す仕組みとは?”、“台風にも「素直型」と「ひねくれ型」がある”など7項目

### 第4章 異常気象の謎と恐怖（嶋村、山内）

“気候の大変動はなぜ起きるのか”、“地球の温度は本当に上昇しているのか”、“温室効果”の真の恐ろしさとは? ”、“雲は地球の温暖化を抑える!?” など12項目

### 第5章 天気予報に強くなる勘どころ（嶋村、山内）

“天気の種類はいくつあるのか”、“上空5500メートルの寒気”が意味するもの”、“なぜ似たような天気図でも実態は異なるのか”、“予報作業の第一歩、「東谷」と「西谷」とは?” など8項目

### 第6章 日進月歩する気象情報（嶋村、山内）

“気象の長期予報はなぜ難しいのか”、“数値予報はどこまで進んでいるのか”、“数値予報の結果が「お天気」に翻訳される方法とは?”、“気象レーダーはどこまで天気を探知できるのか”など11項目

最後に、「おもな参考・引用文献」が載っている。

以上のような幅広い話題の中でおもしろく読んだのは、第2章の“未確認発光物体、現わる!”である。1983年1月11日夜に対馬の厳原測候所で観測された薄い高積雲からぶらさがっているような白い線状の発光体と1983年12月26日夜に函館市の南上空に現れた約10本の光条の正体が、漁船の漁火を無数の氷晶が反射した光柱現象であると説明されるまでの経緯が生き生きと書かれている。

なお、この本で用いられている図表の数（29図、6表）は、多くない。しかし、著者の一人の山内さんは、文庫本に掲載が困難であった図・写真など補足的な資料をホームページ（<http://homepage3.nifty.com/toyotaro/>）に掲載している。また、このホームページには著者達の電子メールアドレスが掲載されており、著者達への質問や意見などを送ることが可能である。

（気象大学校 水野 量）